

旭川支部が3会場で「相談会」 職業病と建退共で33人の相談者

旭川支部は3月に旭川市（17日）・富良野市（24日）・名寄市（31日）で「職業病・建退共相談会」を開きました。相談会には33人（電話相談をふくむ）の相談者が来て、アスベスト疾患（16件）やじん肺（5件）、振動障害（11件）、騒音性難聴（8件）など職業病についてと建退共（4件）の相談を受けました。

JR北海道のダイヤ改正提案時からの課題を検証

3.16ダイヤ改正で特急列車が全席指定化されましたが、旭川方のみが自由席を半減して残したことで「かよエール定期」利用者が着座する機会を奪われてしまう問題が生じました。改正後の車内状況と建交労に寄せられている利用者の声や、聴きとった駅社員への苦情の内容から、団体交渉や意見交換の場で議論を重ねてきました。

意見交換の場では、自由席が半減になっても「えきねっと」利用者の拡大によって格安な指定席の販売が進むことで自由席の確保は可能だと考える会社と、高齢な利用者が多い北海道では「えきねっと」の広がり鈍く格安な指定席の販売は思うように進まず、自由席車両で「イス取りゲーム」が起り指定席には空席が溢れる状態を想定し、日常的にJR北海道を利用してくださる北海道民を大切にすることを求める建交労との攻防でした。会社が建交労との意見交換をせざるを得ない状況となったのは、ダイヤ改正から2週間も経たないうちに、特急ライラックは平常であれば2両の自由席車両を確保して運行されているところ、車両運用の関係からカムイ編成で運行した場合に自由席が1両のみとなって車内は混雑し、乗車後に指定席を買い求めたお客様がいたことが建交労に届けられたことです。ライラックで使用する車両は4編成が必要ですが計画的におこなわれる修繕と工場入場や突発的な修繕が重なった場合にカムイ編成を組み入れることで自由席が1両になってしまうことが判明しました。このことが駅営業サイドには知らされずにダイヤ改正提案がおこなわれていました。旭川方のみが従前の「かよエール定期」で、釧路・函館方は「かよエールプラス」として価格は据え置いて指定席の事前予約を可能にしている不平等な点を見直さずに突き進んだ結果だと考えます。

4月19日におこなわれた意見交換の場には会社から営業と駅業務の各課長が出席し、検討状況が報告されました。本社サイドではライラックにカムイ編成が使用される際には自由席を拡大する対応策を検討し、各部署の社員に聞き取りをおこないましたが業務量が拡大することやお客様への周知と対応が厳しいことを理由に反対という意見がまとめられたので、現行のまま運用を継続するとの説明でした。結果として現段階での新たな対応は示されませんでした。問題が各部署で共有ができたことや本社の考えを現場におろして社員の声を聞き取ったことなど従前と違った会社の姿勢は感じられました。社員の頑張りでも乗り越えられる課題もあると思いますが、人手不足に直面し日々の奮闘で安全・安定輸送を確保している社員の更なる労働強化につながってしまいます。建交労としては、違った方法での対策を検討したいと考えています。増収を見込んですすめた特急列車の全席指定化という施策が、お客様へのサービス低下を招き公平さを確保できない大きな矛盾を抱えたものだったことが露呈しました。

引き続き、「かよエール」定期利用者から車内の状況を聞き取り、会社では拾いきれないお客様の声をもって会社に対応を求めます。また、増収施策を講じる際には、道民割を設定するなど温かさと思いやりが伝わり、理解と賛同が得られるように丁寧な取り組みをおこなうことを強く求めて意見交換を終えました。

（北海道鉄道本部委員長・竹田吉宏）